

## 1. 略歴

1968.3	東京都立新宿高校卒業
1968.4	東京大学文科三類入学
1971.10	サンケイスカラシップによりドイツ連邦共和国テュービンゲン大学留学 (1973.4 帰国)
1974.3	東京大学教養学部教養学科「ドイツの文化と社会」分科卒業 (教養学士)
1976.3	東京大学大学院人文科学研究科独語独文学専攻修士課程修了 (文学修士)
1976.4	東京大学文学部助手 (ドイツ語ドイツ文学)
1977.9	ドイツ連邦共和国テュービンゲン大学後期中世・宗教改革研究所にて在外研究 (1980.3 帰国)
1980.4	東京都立大学人文学部講師 (ドイツ語ドイツ文学)
1983.4	同 助教授
1985.4	東京大学文学部助教授 (ドイツ語ドイツ文学)
1985.5	ドイツ語学文学振興会賞受賞
1985.7-9	ドイツ学術交流会 (DAAD) の招待によりドイツ連邦共和国へ研究出張
1986.7-9	東京大学学術基金によりドイツ連邦共和国へ研究出張
1989.10	ドイツ連邦共和国アレクサンダー・フォン・フンボルト研究財団の研究奨学金によりテュービンゲン大学ドイツ文学科および後期中世・宗教改革研究所にて在外研究 (1991.9 帰国)
1994.12	東京大学文学部教授 (ドイツ語ドイツ文学)
1995.4	学部改編により東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、現在に至る
1995.7	ドイツ連邦共和国大統領より Philipp Franz von Siebold-Preis 受賞 (同賞により 1995、1997、1998、1999 の各年度夏期休暇時、ドイツ連邦共和国ほかへ研究出張)
2001.4	国際交流基金助成により、ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学にて、同大ラインハルト・シュヴァルト名誉教授と共同研究 (2002.3 帰国)
2002.8	国際ルター学会 (於コペンハーゲン) で研究報告
2005.7-9	ドイツ連邦共和国アレクサンダー・フォン・フンボルト研究財団の受賞者再招待により、テュービンゲン大学後期中世・宗教改革研究所ほかへ研究出張
2009.11	ドイツ、ハイデルベルク学士院主催ワイマール版ルター全集完結記念シンポジウムで研究報告
2011.8	学術振興会科学研究費により、ドイツ、ヴォルフエンビュッテル、イエナ、ドレスデン各図書館他へ調査出張
2012.2	ドイツ、ヨーロッパ史研究所 (マインツ) 主催コロキウムで研究報告

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野      b 研究課題

専門分野としては、ルター研究とドイツ中世文学・中世思想研究を重点としている。

前者については、西欧思想史の中で、伝統的キリスト教思想を革新するとともに近代への発展の関与が問題にされ、また特にドイツ思想史上まれな独自性と影響力を兼ね備えた思想家、ルターの思想を、完成した教義としてでなく、中世思想の伝統やアクチュアルな状況との関係の中で運動としてとらえ、日本人にとってのあらたな理解の地平を開くことを課題としている。

### c 主要業績

#### (1) 口頭発表

„Das Wolfenbütteler Psalter als Reformationsdokument“ (2012年2月17日、於ドイツ連邦共和国マインツ、ヨーロッパ史研究所、コロキウム Das Erbe der Reformation. Martin Luther in Dokumenten. Ein Expertengespräch)

## 3. 主な社会活動

#### (1) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

日本学術会議、連携会員、2010～

日本学術会議、連携会員、言語・文学委員会委員、文化の邂逅と言語分科会委員長、2011.10～

ドイツ学術交流会奨学生選考委員 2007-8, 2010-11

学術振興会審査委員 2010-11